

第2回二戸市総合計画審議会 議事録（要旨）

開催日時：令和2年12月24日（木）午後2時～3時40分

会場：二戸市民文化会館 中ホール

【出席委員（敬称略）】

久慈 浩、長葭常紀、川上 隆、中田勇司、生内雄二、高橋美佐子、浪岡幸子、一本木哲男、坂本敏美、戸来守和、古里政志、太田郁夫、成田耕一郎、青谷耕成、澤村郁子、野崎芳宏、高田将洋、馬場彩乃、黒沢一史、小保内威彦、小軽米健太、下斗米佑太

【説明のため出席した職員】

藤原淳市長、大沢治副市長、鳩岡矩雄教育長、田中館淳一総合政策部長、久慈清隆総務部長、小野一浩健康福祉部長、佐藤春彦産業振興部長、石村一洋建設整備部長、山本進浄法寺総合支所長、玉懸邦将教育部長、工藤博幸総合政策部副部長兼政策推進課長

【会議の概要】

◎開会に先立ち、出席委員の紹介と、市側出席者の紹介、欠席委員の報告

1. 開会

2. 市長あいさつ

皆さんこんにちは。本日は、師走のお忙しい中、また雨の降る中お越しいただきありがとうございます。年末になり、新聞は10大ニュースを出しているが、二戸市の漆掻き技術がユネスコ無形文化遺産に登録されたというニュースが10番目に載り、年末の締めくりに明るいニュースになったと思っている。この1年を振り返ると、「奥南部漆物語」の日本遺産認定、また天台寺が360年ぶりの大改修を終えたこと、金田一温泉の公民連携に着手し、新しい姿が見えてくることがあります。また九戸城でも工事に入っているところ。また、駅東側については、区画整理による公民館や消防屯所の移転、小学校に向けての安全安心な整備が行われる予定。このような中、市内の100歳以上のお年寄りが30人を超え、いよいよ長寿社会に向かって進んでいると感じている。新型コロナが、市内に大きな影響を与えているわけだが、市民の皆さんからは多くのマスク等のご寄付をいただくなど、本当にありがたいと思っている。コロナによって、いろいろな支障が出ているが、国の補助等を組み合わせながら、できるだけ影響が大きくなるようにしている。なかなか難しいところだが、コロナ禍が収束して、新しい生活が始まればいいと思っている。ワクチンについては国のほうでもある程度確保できてきたが、接種方法などについてはこれから詳細が明らかになるので、二戸医師会の先生方のご意見をいただきながら進めていきたいと思っている。後期計画は5年間だが、ご承知のとおり、今後の財政状況が厳しくなっていく中で、市民の皆さんが何を目標にしながら進めていくことになるが、今ある基盤整備にソフト、ITなどをうまく組み合わせながら、市民の皆さんの生活や産業の振興に結び付ける方策を考えなければならないと思っている。本日皆さんにお配りしている資料については、足りない分、あるいはもっともっと深めなければならない部分などたくさんあると思うが、皆さんのご意見を賜りたいと思います。よろしくお願ひします。

4. 議事

○久慈会長

それでは、引き続き議事を進めてまいります。委員の皆さんのご協力をお願いします。

議事の（1）意見聴取等の結果について、ならびに（2）第2次二戸市総合計画後期基本計画（案）について。以上2つについては関連がありますので、事務局より、一括で説明願ひます。

（事務局説明）

○久慈会長

説明が終わりました。前半では、市が計画の策定にあたり、これまで行ってきた意見聴取の内容であり、その結果を踏まえての、後期基本計画案となっている。

市民ワークショップには、審議会委員の皆さんもご参加されたとのことだが、戸来委員は、ワークショップに参加して、どのような印象をお持ちになったか。

◇戸来委員

ワークショップには、若い人がたくさん来ていたし、子育て中のママさんも参加していた。資料を見ると、子育て世代の意見も少し反映されているという印象。また、私は前回、SDGsについて述べたが、SDGsは2030年に向かって「行動に移す10年」と言われている。ビジネスや地域活動に生かすことで、地域のブランディングへのパワーになると思う。県北の地方都市でもしっかりやれるというところを見せて、またユネスコも後押しになると思うので、それを生かすチャンスとして紐づけしていくことが、計画の推進力になるのではないか。

○久慈会長

このほか、委員の皆さんから、この件に関してご意見、ご質問は。特に、ワークショップに参加された方からは、参加しての感想などもいただけたら。

◇一本木委員

ワークショップ参加者の中で、私が一番高齢だったのではないかと思っているが、私は働き方改革という点で、そうかと思うことがあった。一緒に班のメンバーに、Uターンして専業農家をしている方がいたが、その方は単身赴任で働いていると聞いて驚いた。その方がたまたま農業だったが、地元でもできるということ、他にもいろいろできる余地があるということを感じた。

◇小保内委員

私は妻と11月27日の回に参加したが、一緒に班になったのが若い市職員だったが、彼らが「若い世代ががんばっていて、住みやすいまち」と言った。市の底上げをするには、一番は人づくりだと思う。また、他の日に参加した人に聞いたら、市について考える時間や機会を与えてもらったのが一番良かったと言っていた。いい経験になった。このような機会を、毎年とか、毎月とか設けていくと、市のレベルアップにつながるのでは。そこで、骨子案を見ると、「人づくり」の項目が3つから1つになっており、人づくりに重点が置かれなくなると危ないなという印象を持ったので、そういうことがないようにしてほしい。

◇中田委員

若い人の活躍は本当に大事。私は20代でUターンし、青年会議所や地域において、仲間たちと切磋琢磨して活動してきた。その中で、カーリングを始めたり、カシオペアFMを開局したりしてきたが、今も思いは変わっていない。娘がUターンしてきて3年になるが、家と職場を往復する生活を見ていると、若者にとって外に出ること、活動するためのきっかけづくりが必要ではないか。娘にもカーリングを勧めたところ、はじめは面倒くさそうにしていたが、今では若い仲間ができ、ミライリンクのメンバーとして活動している。若い人の活動に広い窓口をもって支援することが、人づくりにつながるのでは。若い感性がまちづくりにつながると、その人にとっても、ここに住む喜びを感じられる。都会にいたら誰かがやってくれるが、ここは、自分たちで取りに行くことで地域を動かし、明るく元気なまちになる。ぜひ、そこに支援をしてほしい。人のネットワークで、想像もつかない広がり生まれるかもしれないという意味でも、スポーツはいい方法だと思っていた。また、テロワールについてだが、最近この言葉がようやくピンとくるようになった。二戸でなければ、と自信をもって言えるようなものがある。世界では、蔵を見学し、おちょこで酒を飲めるなら、30,40万円出しても来るといような話を聞いた。新幹線で来れる立地でもあるし、ぜひ推進すべき。もう一つ、二戸駅東口の景観は何とかしなければならぬと思う。市も、何か考えてほしい。東口に降りると、ゴーストタウンのようだと感じてしまう。優先度は決して低くないと思う。

◇小軽米委員

ワークショップにはたくさんの方が参加したので、うれしかった。出てきた意見の中には、すでに市で取り組んでいるなどと思うものもあったが、模造紙いっぱい貼られた付箋紙は、「変わってほしい、何かやってほしい」という考えの現れ。まちをつくるための人をつくるということになるのでは。市には、取り組んでいることやわかっていることもあるとは思いますが、変えようとしている意思を感じてもらえたら。先日、20代の人と話す機会があり、駅前にほしいものは何かと聞いたら、「ゲームカフェ」を答えた。価値観が違うなど思ったが、こういう若い人たちをもっと巻き込んでいけないかなと思っている。

◇生内委員

私からは商売をやっている立場として、本音を話したい。新型コロナのダメージを受けた企業が立ち直るには、2,3年かかる。雇用もそう。「企業を救う」ということを、計画に盛り込んでほしい。存続とか、雇用への安心とか。

○久慈会長

皆さんからさまざまなご意見をいただきました。ここで、行政のほうから何かあれば。

□総合政策部長

いつも大変ありがとうございます。皆さんからいろいろな意見が出た。今若い人たちがすごく頑張っている。市も、コロナ対策をしてのイベント支援などを行ってきた。生内委員の質問にあったが、提示した「4つの視点」を、すべての施策にどう組み合わせればいいのか考えている。国も第3次補正予算の中で、来年度に向けた事業展開を考えているところ。SDGs や Society5.0 など、さらに進展した考え方を組み合わせる必要があるし、国土強靱化も同様。ただし、その中でも持続可能な行財政運営を心掛けながら、優先順位を整理しなければならない。また、人づくりについてもお話があったが、施策項目は統合して強力に進めるといった考え方。一緒になってまちづくりを進めるという考え方を持って進めていく。スポーツについても交流人口の拡大などを含めて進めていこうと考えているし、日本遺産やユネスコなども世界の注目を受けることから、これらを起爆剤としながら、今回の骨子案を作成した。委員の皆さんもぜひ、ご理解をお願いしたい。

○久慈会長

それでは、この件に関してはここまでする。次に（3）、第2期二戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について。事務局より、説明願います。

（事務局説明）

○久慈会長

説明が終わりました。この戦略は、二戸市が、将来的な地方創生に向けて策定しているもので、総合計画と連動して推進することです。詳細については今後、もっと明らかになるとのことですが、まずは商工業事業者の目線から、生内委員はどのようなお考えをお持ちになりましたか。

◇生内委員

先ほどの関連になるが、やはり、優先順位はどこかに必要だと思う。均等な配備は無理だと思うので、今あるものに対する予算の考え方、そして、商工業に対する支援をお願いしたい。

◇下斗米委員

人口減少はどこでも抱える課題であり、岩手県北は特に高いと思う。私は、二戸市は日本の未来を映しているのではないかと感じており、この先、都市部の人口も減少していく中で、未来を体現しているともいえるのではないかと。だからこそ、先進的な取り組みを積極的に取り入れる必要がある。例えば、集落の距離をどんな方法で縮めるかということに先進的技術を使って解決するなど。どこよりも先に取り入れることを意識すべき。今多用されているリモートは、技術としては15年以上前からあり、すでに取り入れていた都市部の企業は対応が早かった。これからの若い人たちの考え方に合わせられるような環境をどう取り入れていくかが課題。不便さに対し、便利にするために行動をおこせる人が必要。私も、ワークショップに参加したが、不便なことを便利にするために、市にお願いしますという回答が多かった。これを、自分たちでやっていける人づくりがこれから求められるだろうと思っているので、自分たちでもやれるということを体験させながら覚えていくことも必要ではないかなと思っている。

○久慈会長

ここまでのご意見に対し、行政から何かあれば。

□副市長

前期5年間での取り組みで、うまくいっているものもあれば課題もあり、難しいところだが、今日の皆さんのお話を聞いていると、他の自治体との競争より、目を向けるべきは自分のところだと思った。総合戦略は国が平成27年に法律を制定したもので、その中で二戸市はたまたま、第2次総合計画と同時期に策定している。総合戦略は国の支援を引っ張るためのもので、あくまで基本は総合計画。

○久慈会長

他に、委員の皆さんから何かありますか。なければ、この辺で市長からお話することはないか。

□市長

副市長の説明のとおり、総合計画が基本となっている。その総合計画実現のため、有利な財源を獲得しようと、総合戦略、国土強靱化地域計画を策定している。総合戦略によって地方創生関係の交付金を活用し、なにやらとや滴生舎のリニューアルを行ったり、国土強靱化については国の補助を活用し、今まで着手でき

なかった長嶺地区などの雨水排水路整備を行い、安全で安心な暮らしにつながっている。ご意見もいただいているが、まちづくりの方向性については、総合計画の中で示していく。今年、天台寺では3回の清掃活動に毎回100人以上の方が来てくださったし、運動場のほうでもきやばまちマルシェを開催した。仕掛け方によると思うが、皆さん、何かの役に立ちたいと考えてくれており、まちづくりの原動力になっている。何ををもってしても、人。しっかりしたリーダーがいるところが伸びていく。お手元に、岩手日報「声」の記事の写しをお配りしたが、市内の小学生から「二戸に大型店がほしい」というような記事が載った。それに対し、「二戸には大きなお店はないが、暮らし方によっては楽しいまちになるよ」という内容の返答を載せてもらった。二戸には二戸のよさがあり、それをみんなで生かしていくのだと。ただ、情報を共有しなければ、何もわからない。そういった意味でも今回のワークショップは、気軽な場として考えられたのではないかと。また、駅前についても、徐々に整備を進めており、古い部分と新しい部分を実感できるようなまちづくりができないかと考えている。基盤は私たちがつくるが、若い方々の斬新な新しい感覚で、どんどんご意見をいただきたいと思っている。また、コロナからの回復については、どのぐらい早く回復させられるかだと思う。そのためのスタートダッシュが本当に大事。

○久慈会長

それでは、総合戦略についてはこの辺にして、意見交換の時間も設けられています。皆さんから何かありませんか。

◇戸来委員

駅東口の活性化については、私も町内会でまちづくりの会議を行っている。高齢者も多く、将来のまちづくりまでビジョンもなかなか出ず、金勢祭のメンバーを中心にもがきながら進めているところ。二戸駅はカシオペア地域の玄関口であり、斬新な計画が求められると思うので、逆に委員の皆さんにもご意見を聞きながら、市に提案させていただきたいと思うので、委員の皆さん、これからもよろしくお願ひします。

○久慈会長

この件に関して、行政側から何かないか。

□建設整備部長

今のお話だが、職員も参加させていただき、一緒になって考えているところ。今、土地区画整理事業にも国の補助が付き始めているが、二戸地域に限らず、県北地区の玄関としての核として整備を進めていかなければならないと思っている。皆さんを引っ張り、皆さんに引っ張られながら、なるべくスピード感をもって取り組んでいきたい。

○久慈会長

長葭委員は、市外から見てどんな印象がありますか。

◇長葭委員

今日の話聞いて、皆さんの地域を愛する熱い思いをしみじみ感じている。IGRに乗ってここまで来て、資料を読んでいたが、漆掻きがユネスコ無形文化遺産になるという記事が、岩手日報の一面に載っていたのを持ってきた。二戸市が日報の一面を飾るというのは非常に素晴らしいこと。また、先日は浄法寺駐在所が移転したという記事が盛岡地区と同じページに載っていた。変わってきたと思っている。さらには、浄法寺のうろこ滝の記事も載っており、情報管理室のコメントがあったが、これはチャンスだと思うので、早く取り入れていくべき。それから、コロナの影響を受けている商工業の立て直しは急務。盛岡でも、若者の職場が減っており、うちの学生もアルバイトがクビになったり、内定が取り消されたりしている。この辺は特出ししてもよいのではないかと。また、財政のことについても、地方交付税の減少見込などという書き方になっている。今、コロナ関連で国が補正予算をつけているが、この先その反動もあると思う。大雑把でも、はっきりしたところを出していかなければならないと思う。

○久慈会長

川上委員は何かありませんか。

◇川上委員

私もワークショップに参加したが、本当にたくさんの方が参加していた。総合計画をつくるプロセスの中に加わっただけでも素晴らしいことではないだろうか。自分たちの計画、という思いが持てる。このような機会は、何か課題やテーマごとに開催してもよいのではないかと。また、二戸市の記事がマスコミによく取り上げられるようになったが、広報と同時に広聴も非常に大事。市民や団体の意見を吸収できるこ

とが、本当の公民連携につながるのでは。私も今年、天台寺のラジオ de ウォーキングに関わらせてもらったが、ミニマムコストで大きな効果が得られたと思っている。予算の作り方なども、公と民の考え方を取り入れる必要があるのではないか。二戸市はこれから。お互いがウィンウィンの関係を築くためには、普段からの話し合いが大事。

○久慈会長

委員からのご意見に対し、行政から何かありますか。

□総合政策部長

まずユネスコについては登録が決定し、大々的に記者会見をしたところ。日本遺産も6月に発表させていただいた。うろこ滝も、続々マスコミに取り上げられている。さらに展開していきたいと思っている。市のホームページでは、岩手日報とデーリー東北の記事をアーカイブ化して掲載しているほか、フェイスブックなどでも発信を強化している。また、今コロナ対策も第5弾として進めているところ。国の予算もうまく活用しながら進めており、その面でも総合戦略や国土強靱化計画がある。一方で、地方交付税の減少と、それに合わせた臨時財政対策債の増額の話などもある中、市長は前回の議会でも来年度当初予算を縮小する旨の答弁をしたところ。財源の確保や調整を進めながら、適材適所に効率的に配分しながら、元気なまちづくりを行いたいと考えている。

○久慈会長

他に、何かありますか。

◇小軽米委員

きゃばまちらぼの小軽米です。今日はありがとうございました。私も、みらいカフェや都市計画マスタープラン、宝を生かしたまちづくりなどに参加しており、意見を取り入れてもらい感謝している。私たちも11月1日にイベントを行い、冬に第2回のイベントを企画中。その中でも、人づくりに苦勞してきたが、11月のイベントの成功をきっかけに、少しずつメンバーの意識が変わってきたと感じている。また天台寺周辺でも…今日は、計画の骨子案ということで、言葉の先にある具体はまだ見えないが、私から改めてお願いしたいのは、テクノロジーの活用。まちの将来が決まる。最近、ツガワさんが非接触型パネルを独自開発したそうだが、岩手県内ではなく宮城県から声がかかっているとのこと。せっかく中でいいものを作っても、外に出て行ってしまうのはもったいないと思った。下斗米委員も話していたが、まさにその通りだと思う。テクノロジーを使った施策を期待する。また、八幡平市にはスパルタキャンプという、プログラミングを集中的に学ぶ人気講座があるが、卒業者の移住例もあり、面白い取り組み。駅前の活性化については、駅前に住む方だけの問題ではない。いろいろな考えを出し、点を面にしていく取り組みが必要になってくると思う。

○久慈会長

ありがとうございました。今日のご意見をしっかりと受け止め、行政の力をしっかりと携えていただきたいと思います。では最後に、今後のスケジュールについて、事務局より説明願う。

(事務局説明)

○久慈会長

説明が終わりました。それでは、本日の議事を終了します。ご協力ありがとうございました。

(その他として、資料5 第2期国土強靱化地域計画について説明)

□市長

今回は簡単に、概要説明をさせていただいたが、古里委員、何かございませんか。

◇古里委員

私も、防災士連絡協議会の会長をさせていただいているが、市がかつて防災士を150人養成したのだけど、やる人の意気込み次第なのかなと思っている。形ができて中身が伴わないものはいけない。計画もそうならないことを祈る。ここでも、公民連携の考え方が必要になってくるのでは。

□市長

ありがとうございます。

5. 閉会